

日吉台地下壕保存の会

会報

第54号

発行 日吉台地下壕保存の会
編集 事務局

(年会費) 一口千円で、一口以上
郵便振込口座番号00250-2-74921
(加入者名)日吉台地下壕保存の会

会計のお問い合わせ：白鶴 邦子 港北区下田町1-4-14 045-563-3760
その他のお問い合わせ：喜田美登里 港北区下田町2-1-33 045-562-0443

2000 横浜・川崎 平和のための戦争展(第8回)

開催日程 2000年7月22日(土)午前10時～7月23日(日)午後5時
会場 慶應義塾大学日吉キャンパス 藤山記念館
横浜市港北区日吉4-1-1 東急東横線日吉駅下車
入場無料 (有料資料あり)

内容

- (1) 展示 7月22日・23日 午前10時～午後5時
日吉台地下壕・登戸研究所・蟹ヶ谷通信隊地下壕を中心とした写真、
資料、書物、遺品等 ☆特攻隊員上原良司氏の遺品
戦時下の慶應義塾に関する写真
- (2) 討論会 (講演・若者の発表を含む)
22日 13:00～16:00 討論テーマ 「若者と戦争」
講演 “太平洋戦争下の慶應義塾” 慶應義塾大学名誉教授 白井 厚氏
23日 13:00～16:00 討論テーマ 「戦争の実相と戦争遺跡保存の意義」
講演 “戦争の世紀としての20世紀” 慶應義塾大学経済学部教授 松村高夫氏
★若者の発表は慶應義塾大学、中央大学、明治大学、山梨学院大学、和光大学学生他
- (3) ビデオ上映 討論会以外の時間帯
- (4) 慶大日吉キャンパスピースウォーク 23日 10:30～12:00
10:30 藤山記念館集合 日吉キャンパスを平和の視点で見学

目次

ページ

お知らせ	1	2000年度予算	6
会長挨拶	2	2000年度 運営委員・会計	
「横浜・川崎平和のための 戦争展」開催にあたって	2	監査・顧問名簿	6
1999年度活動報告	3	連載日吉台地下壕	
1999年度決算報告	4	当時の関係者の思い出話	7
2000年度活動方針	5	運営委員会報告	8
		南国大会へのお誘い	8

一〇〇〇年度 活動に向けて

会長 大西 章

五月二十日の総会で会長代行から代行がとれました。

能力的にやれる仕事いつも同じなので前向きに考え出来る範囲でやろうと思つてます。

この一年間のこの会との関わりは前号の会報に書きましたので、(二)ではあまり触れませんがこの会の活動の二本柱は日吉台地下壕の学術的研究と見学会等の広報とともに一つは戦争遺跡保存全国ネットワークや地域の方たちとともに日吉地下壕の保存運動の推進だと思います。(これら二つのことは遅々として進みませんが今年も粘り強くやっていきたいと思います。

また、この一年で起きたことに「特定非営利活動法人(NPO)横浜の自然と歴史を守る会」(略守る会)の発

足があります。この守る会の発足するに関していくつかの問題が持ち上りました。(一)

目的の一部や活動の中に地下壕保存の会と重複している」とがかなりある。(二)NPOが神奈川県に登記されるまで保存の会に連絡がなかつた三、守る会の理事長・副理事長など理事と保存の会の運営委員・顧問が兼ねている人がいる四、設立趣意書や入会案内に地下壕保存の会の名前が無断で借用されているなどです。何回かの交渉を持ちました。その結果二つの会は別々に活動をする、登記までの行き違いや地下壕保存の会の名前の無断借用は守る会の理事長名で正式に陳謝し理事会報告に載せる、また問題が起きたらその都度協議する、が守る会の理事長と私の間で取り交わされました。この一年間よろしくお願ひします。

「横浜・川崎 平和のための

戦争展」開催準備にあたつて

運営委員 亀岡 敦子

第八回目を迎える「平和のための戦争展」は「日吉台地下壕保存の会」が産声をあげた藤山記念館で行なわれます。

開会二日目に「慶大キャンパスピースウイーク」を予定していますが、会期中にこのようないささか手狭ではあります。何とか工夫して、意義あるものにしたいと実行委員会で案を練っています。

地下壕の見学はプレイントとして六月に終わっています。今後の予定は会報でお知らせしますので、後日お申し込みください。

多数の方のご来場をおまち催できますことは、万感胸にせまるものがあります。関係者の方々のご理解と協力に

心から感謝申しあげます。

二二二日の講演は慶大名誉教授・白井厚氏の「太平洋戦争下の慶應義塾」、二三三日は経済学部教授・村松高夫氏の

「戦争の世紀としての20世紀」です。若者の発表も予定していますので、是非聞きにいらしてください。

連絡先：亀岡敦子 ○四五一五六一一一七五八

1999年度活動報告

1999年度は、総会において大西章氏を会長代行として選出し、会員、運営委員の協力のもとに一段と充実した活動がすすめられた。

文化庁が進めている戦争遺跡の所在調査は、1998年度までに終了し、詳細調査対象遺跡の選定に入っている。文化財の扱いについての「地方分権化」は、地方自治体において具体化している。(日吉台地下壕は「政治」の分野で神奈川県からAランクで報告)

1999年度活動方針に掲げた事務局体制の整備・充実、インターネットの活用、ホームページの開設等の実現には今一歩の状態だが、見学会の定例化と会報での広報、連合艦隊関係資料の整理、リスト化等が進められた。又、連合艦隊司令部地下壕だけにこだわらない、日吉を含む多摩丘陵のエリアで戦争遺跡と共に、歴史、環境を学ぶ「ピースロード構想」を立てたことは私達の運動を豊かなものにできると考える。箕輪地区の公園化に伴う「艦政本部地下壕」の入口閉鎖に対しては必要に応じて見学できるよう、横浜市に要請した。

戦争遺跡保存全国ネットワークでは運営委員として参画し、全国のグループとの交流も深まり、協力しあって活動が進められるようになった。

◇日吉台地下壕保存の会◇

- 会員数 435名 (3月31日現在) ●会報発行 4回 (50号5/26. 51号9/29. 52号1/25. 53号4/13.) ●定期総会開催1999年4月24日 ●運営委員会開催 11回

★見学会 13回 191名を案内 (日吉台地下壕10回 箕輪の森・艦政本部地下壕3回)

★「第7回川崎・横浜平和のための戦争展」開催 川崎市平和館 6月12~13日

主催 晴耕地下壕保存の会 川崎市平和ワーキングマップ作り実行委員会 篠ヶ谷通信隊地下壕保存の会 後援 川崎市川崎市教育委員会

展示・日吉台地下壕・登戸研究所・篠ヶ谷通信隊地下壕を中心とした写真、資料、書物
遺品等 ★特攻隊員上原良司氏の遺品

講演・シンポジウム

『戦争論』(小林よしのり)をのりこえる平和論…渡辺賢二氏

若者の発表…法政大学、和光大学他 特別報告…浅川地下壕の保存を進める会

ピースロード構想の実現にむけて…長島保氏、須田輪太郎氏、水野次郎氏、

新井揆博氏 戦争体験を語る・それぞれの特攻隊…江見俊太郎氏、上原清子氏
山室勝司氏

プレイベント 5月23日 ピースロードを歩こう

★「平和のための戦争展inよこはま」参加 展示 かながわ県民センター5月21~23日

★「平和のための戦争展かながわ」参加 展示 複合県民ホール8月23~29日

★「第3回戦争遺跡保存全国ネットワーク」京都大会 立命館大学8月4~6日 運営委員6名
参加 発表「日吉台地下壕保存運動の現状と課題」「神奈川の戦跡保存と戦争展のあゆみ」

★「平和のための京都の戦争展・全国の戦争遺跡たち」展示 立命館平和ミュージアム
7月~8月

1999年度 決算報告

(単位 円)

費目	1999年度予算	1999年度決算	備 考
【収入の部】			
会費	280,000	291,000	209名・2団体
カンパ	0	5,000	
図書等頒布	0	132,852	
雑費	0	1,675	
繰越金	629,025	629,025	
計	909,025	1,059,552	
【支出の部】			
運営費	100,000	105,820	各種会合、保管料等
事務費	50,000	43,723	事務用品費等
印刷費	30,000	22,480	会報・資料等
通信費	230,000	174,190	会報郵送費
資料費	30,000	18,000	書籍・資料等
頒布図書購入費		64,000	
交流・交通費	350,000	228,446	全国集会・各平和賛助金
交通費			
謝礼	80,000	7,967	講演・学習・調査等
予備費	39,025	0	
計	909,025	664,626	
差引残高		394,926	

以上の通り報告します

2000年5月17日

日吉台地下壕保存の会

会計 白鶴 邦子



この報告により收支を監査したところ、適正に処理されていることを認めます。

会計監査

森山 高行

印



会計監査

天野 喬子

印



2000年度活動方針

1989年4月、日吉台地下壕保存の会が発足し、11年間にわたり、戦争遺跡としての保存と活用にむけて、様々な活動を行ってきました。学術的な調査研究と、保存の気運を高めるための見学会や戦争展が活動の2つの柱であり、更に慶應義塾大学や地域住民の方々への働きかけや、横浜市、神奈川県、国等の行政への働きかけが重要な活動といえます。

1995年、文化財指定基準が第二次大戦終結までの時期に延長されました。これを受けて、1997年7月、全国で独自に調査・研究や保存運動をすすめている団体が結集し「戦争遺跡保存全国ネットワーク」が結成されました。

「日吉台地下壕保存の会」も呼びかけ団体として結成に参画し、過去3回の全国大会に参加し、発表を行い交流を深めました。今年は高知県で、また2001年には神奈川県での開催が決定しており、保存の気運が更に高まりをみせる大会となるよう、その足固めをしなければなりません。

今年2000年は、国連が定めた「平和の文化国際年」です。「戦争と暴力」の20世紀から「平和と非暴力」の21世紀への掛け橋の年といえるでしょう。私達は、会員の力をあわせ、全国の共通の願いを持つ人達とも力をあわせ、保存の意義を明確にし、認識を深めるため以下の活動を提案します。

1. 研究調査、学習

(1) 艦政本部に関する学術調査

緑地公園化に伴い、早急に実施の必要がある箕輪地区の調査研究を具体化します。

(2) 「ピースロード構想」の一環として、広い視野と角度から、日吉地区の更なる研究調査を進めます。

(3) 日吉台地下壕に関する方々の聞き取りによる調査をまとめ、様々な手段で史跡として、立体的に組み立てます。

(4) 会員の知識を深めるための学習会を行います。

2. 戦争遺跡保存全国大会参加、見学会、戦争展

(1) 戦争遺跡保存全国大会参加 (2000年8月18日～20日 高知県南国市)

(2) 見学会を会主催で定期的に行います。

(3) 「横浜・川崎平和のための戦争展」主催 (2000年7月22, 23日予定) 「戦争展 in よこはま」「戦争展 in 神奈川」参加

3. 以上のような活動をしながら、横浜市、神奈川県や、慶應義塾大学をはじめとする地域の人々と連帯し、保存・公開・活用という目的のため話し合いを続けます。

4. 運営委員会の活性化と充実をはかり、活動を一層円滑で豊かなものにします。

日吉台地下壕保存の会

2000年度 予算

2000年度 運営委員・会計
監査・顧問名簿

会長 大西 章

副会長 鈴木 順二

運営委員 新井 摥博

" 岩崎 昭司

" 大久保 隆

" 岡上 そう

" 亀岡 敦子

" 喜田美登里

" 酒井 啓

" 佐相 康雄

" 鈴木 高智

" 白鶴 邦子

" 谷藤 基夫

" 遠山 孝治

" 都倉 武之

" 中沢 正子

" 中谷 俊吾

" 林 ちづ

" 茂呂 秀宏

会計監査 天野 喬子

" 森山 高行

顧問 永戸多喜雄

" 佐藤 林平

" 鮫島 重俊

" 東郷 秀光

費目	2000年度予算	備考
【収入の部】		
会費	304,000	300名・2団体
カンパ	0	
図書等領布	0	
雑費	0	
繰越金	394,926	
計	698,926	
【支出の部】		
運営費	100,000	各種会合、保管料等
事務費	30,000	事務用品費等
印刷費	30,000	会報・資料等
通信費	200,000	会報郵送費
資料費	20,000	書籍・資料等
領布図書購入費	50,000	
交流・交通費	240,000	全国集会・各平和農賛助金
謝礼	20,000	講演・学習・調査等
予備費	8,926	
計	698,926	

収入の部の会費は前年度実績をもとに計上しました

2000年5月20日

日吉台地下壕保存の会
運営委員会

★一九九九年度会費の未納の方は白鶴までお送りください
ようお願いします。

お願い

(7)

田吉台地下壕

当時の関係者の

思い出話 32

海軍主計科士官の回憶

御厨 文雄

私は昭和一八年一二月一〇日、大学経済学部二学年在学中のまま、学徒兵として佐世保海兵团に入団した。時あたかも第二次世界大戦末期、戦局大いに我に非なる秋（とき）であつた。世にいう、いわゆる学徒出陣である。

①勉学の重み
学業半ば、大学在学中の学徒兵であつたがために、戦争中、海軍経理学校在学中、そしてその後の全海軍生活を通して、常に学問に対する情熱を心に固く抱き続けて来たことは、まぎれもない事実である。

つた。私はめったに後悔しない性格の持主であるが、この時期に限つていえば、大学在学中不勉強であつたことが悔まれてならなかつた。

それだけに海軍経理学校在学時代は、海軍主計科士官としての諸々の教育のほかに、

特別に設けられていた、石井照久教授の「法律概論」「商法概論」、東畑精一教授の「戦時経済政策」等々の週一回二時間の特別講義が、楽しそして非常になつかしい思い出となつて残つている。

戦死する日まで、最後まで学問を続けようという、純粹な気持を持ち続けることができたことは、学徒出陣と海軍経理学校生活の賜であると、今日に至るまで感謝し続けて

く共感を傳るのは、この点であり、この問題である。あの時代、あの時代にあつては、私のような怠惰な学生はもとより、勤勉な学生ほど、向学の志を強く抱きしめていたかのように思われてならない。

②大谷石の奮闘

昭和一九年九月、海軍経理学校（短期現役主計科補習学生第一一期）卒業後、横須賀海軍施設部付として、千葉県木更津市に在り、木更津海軍航空隊の飛行場設備・設営の任務にあつた後、翌昭和二〇年二月、海軍省・海軍施設本部付となり、海軍施設本部（海軍第三〇一〇設営隊）主計長（海軍う四七〇部隊）主計長職務執行に任命された。

後年、海軍経理学校時代の戰友たちと会うたびに、常に主たる話題となり、ともに強

く、施設設備用の原料・資材の購入調達という重要な任務で當隊であった、第三〇一〇設営隊（隊員数一二〇〇名）の任務は、田吉台（現在、横浜市港北区田吉町、慶應大学教養学部所在地）における地下、築城施設の完成にあつた。

その地下築城施設は、地上から九二段も階段で地下に降りるほど深い大規模のものであり、田吉台地を縦横に掘り抜いてコンクリートで固めた、一大地下築城施設であり、当時の海軍中枢部であつた。それは、G・E（連合艦隊司令部）、海軍省、軍令部、そして後の海軍總隊司令部等々のための重要な地下築城施設でもあつたのだ。

（この項つづく、生協ニュー
ス教職員版第51号より抜粋転
載）

